

脱税が経済成長・資産分布に及ぼす影響の理論的考察

神戸大学 経済学研究科

江元 正和 *

概 要

本稿では、脱税が経済成長と資産分布に対してどのような影響を及ぼすかについて考察する。脱税が経済成長に及ぼす影響を考察した既存研究に AA.Toda(2017) など議論された Fokker-Planck Equation を導入したモデルを構築して、脱税と資産分布の関係性を分析する。

考察結果として、次のことが示された。1 つ目には、脱税発生時には税率と経済成長率の間には M 字型もしくは逆 U 字型の関係が示された。そして、脱税時の最大の経済成長率は脱税が発生していない時の最大の経済成長率と同じになるか、ある条件下では脱税時の最大の経済成長率は脱税が発生していない時の最大の経済成長率を下回る。

2 つ目には税率が変化すると脱税額の変化を通じて資産分布の形状が変化し、その結果として税率が上昇すると資産格差が拡大することが明らかとなった。そして、ある条件を満たす場合には脱税は経済成長を停滞させると共に、資産格差の拡大を通じて所得格差の拡大をもたらすことが示された。

キーワード：経済成長; 資産分布; 脱税

JEL 分類：D31,D81,H26,O41

*連絡先：171e102e@stu.kobe-u.ac.jp